MEDIA RELEASE

2024 年 12 月 5 日

「マッハ車検 GR Supra GT4 EVO」ST-Z クラス 13 台中 5 位ゴール

Team Noah「マッハ車検 GR Supra GT4」は、11 月 16～17 日に富士スピードウェイ(静岡県)で開催されたENEOS スーパー耐久シリーズ 2024 第 7 戦(最終戦)「S 耐ファイナル FUJI」に参戦。4 時間耐久レースの予定が、大きなアクシデントが 2 回あり決勝の半分、約 2 時間が中断するなど荒れた展開となったが、激戦区の ST-Z クラス 13 台中 5 位で完走し、今季をシリーズ 10 位で終えた。

福岡に本拠を置く Team Noah(代表：清瀧雄二)は、“九州に元気を！九州のモータースポーツにもっとワクワクを！“を合言葉に九州のレーシングチームとして 2018 年より S 耐に参戦を開始。2021～22 年はホンダ・シビック TCR で ST-TCR クラスチャンピオンを獲得した。昨年は車両を GR Supra GT4 EVO にスイッチし、敢えて激戦区クラスであり国際的にも人気のある GT4 車両による ST-Z クラスへクラス替えをし多くのデータを収集した。今季は GR Supra GT4 EVO の新車を投入。新たなスポンサーを迎え車名、カーナンバーも変更し、海外レース経験も豊富な金丸ユウをエースドライバーとした。今回は前戦・岡山をスキップした下垣和也、大分出身の森田真心(こころ)、ST-3 クラスで鍛えた冨田自然(あるが)の計 4 名でレースに臨んだ。

今回の富士 4 時間レースに出走した車両は、全 9 クラスで今年最多の 65 台。ST-Z クラスは、GR スープラ、Z、ポルシェ・ケイマン、メルセデス AMG、アウディ R8 と国内外の GT4 マシン 5 車種計 13 台がエントリーした。16 日の午後に行われた公式予選は A、B ドライバー 2 名のベストタイム合算で争い、下垣と金丸のタイム合算の結果クラス 10 位総合 18 位となった。B ドライバー予選では、金丸がコースレコードをマークしてクラス 4 位につけ、今回のレースへの期待が高まった。また森田、冨田も難なく基準タイムをクリアした。

決勝は晴れ/ドライで気温 22℃という 17 日の 12 時 29 分にスタートした。まずは金丸がステアリングを握り、3 周目には 3 台、6 周目にも 2 台をかわしクラス 5 位へ一気に順位を上げた。スタートから 20 分ほどが経過した 11 周目に 300R でクラッシュした車両があり、FCY(フルコースイエロー)からセーフティカー(SC)導入となり、ここで最初のピットインをしてドライバー交代を済ませるチームが続出した。今回のレースでは給油を伴うピットインが 3 回義務付けられている。しかし金丸はコースにとどまったため、クラス 2 位総合 4 位まで順位を上げた。SC ランは 20 分近く続いたが、ガードレールが大きく破損していたことで 13 時 12 分の時点でレースは中断となった。

約 1 時間後の 14 時 20 分にレースは再開。クラス上位の 2 台がピットインしたことで、金丸はクラストップ、総合 2 位に順位を上げた。1 回目のピット作業を終え ST-X クラス車両が金丸を追い抜いていったが、クラストップを守ったまま周回。金丸の最大運転時間が迫っていた 15 時過ぎに 1 台の車両がダンロップコーナー手前で単独クラッシュ。これで FCY から SC 導入となり、今回もガードレールが大きく破損していたことからこのレース 2 回目の中断となった。

レースは約 1 時間後の 16 時丁度に再開。約 2 時間の中断のために、ピット作業は 2 回、A ドライバーは計測ラインを 2 回以上通過で OK となった。金丸は 42 周でピットインし A ドライバーである下垣に交代。わずか 4 周で義務周回をクリアして下垣はピットインし、アンカーの森田に交代した。この時点でクラス順位は 5 位までダウンしたが、森田はこの順位を守って 16 時 31 分にチェッカー。クラス 5 位総合 11 位という結果で最終戦を終え、シリーズランキングは 10 位となった。今季は参戦車両を GR スープラの新車に換え、オートポリスでは 3 位で初表彰台を獲得するなど着実に進歩し収穫の多い一年となった。来季の体制は未定ながら、さらなるステップアップを目指す。

下垣和也「中断の関係でわずか 4 周ぐらいしか走りませんでしたが、ちょっとでもミスしたら終わりだなと思って、こんなに緊張するレースはありませんでした。無事につなげることができて良かったです。GT4 スープラは 3 回のレースで走って、少しずつ走れるようになりましたが結構苦戦しました。今まで乗って来たクルマとは全然違う動きをするのでとても勉強になりました。この経験を今後も生かしていきたいと思います」

金丸ユウ「乗っている時間も待っている時間も長いレースでした。クルマは今年で最も良く仕上がったのではないかと思います。ロング(ラン)のペースも速かったし、結果は 5 位ですが内容は良かったです。チームは(ST-)Z クラスの経験が少なく毎回手探りでしたが、レースの積み重ねで進化はして来たと思いますしそれが最後のレースにつながりました。熾烈な Z クラスでは甘くはないですが戦えるようになったのかなと思います」

森田真心「今回は最後にギリギリで乗せてもらい、うれしかったです。スタート位置(10 位)からすればいい結果になりました。S 耐に出るのは今年が初めてだったので、先輩方にいろいろ教わりながらのシーズンになりました。クルマをいかに速く走らせるかというのはもちろん、レースに対する取り組み方というのも一から教わりましたので、そういう意味でもとてもいい経験になりましたし成長はできたのかなと思います」

冨田自然「今回はレース中断もあって決勝では乗ることができませんでしたが、しょうがないです。今季は目まぐるしい一年でいろんな経験をさせてもらいました。僕も多少なりとも貢献できたことはあると思いますが、まだまだ足りない部分や課題はたくさんあると感じましたので、これからも精進していかないとと痛感しています。金丸選手の走りを見て勉強しまたセット出しもやらせてもらい、ものすごくいい経験になりました」